

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果について

南丹市立園部第二小学校

令和8年4月に、第6学年において文部科学省による全国学力・状況調査を実施しました。これは、児童の学力や学習の状況を分析し、結果と課題を検証して改善を図ることが目的です。本校の結果を基に学力傾向についてまとめました。その概要についてお知らせします。

【全国学力・学習状況調査】の内容（文部科学省 実施要項より）

○教科に関する調査（国語及び算数において、下記の①②を一体的に問う内容）

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

○質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習環境、生活諸側面等に関する調査

1 本校の調査結果

教科	国語	算数
全国比較	同程度	同程度

全国の平均正答数比較

平均正答数比較の基準（問）	- 2 - 1 + 1 + 2				
	低い	やや低い	同程度	やや高い	高い

2 国語科の結果から

- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」などの知識及び技能の正答率は、全国平均を上回っており、言語事項の学習内容を身につけることができていました。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域における正答率は全国平均とほぼ同じでしたが、「書くこと」「読むこと」では、全国平均を下回っていました。
- ・問題形式別では、「記述式（文章を書く）」が全国平均を上回り、自分の考えを表現する力が付いてきています。しかし、「短答式（短い言葉で書く）」 「記述式（文章を書く）」での「無回答率」が全校平均を上回っており、最後まで粘り強く考えていく態度を育てていきます。
- ・今後も、児童が「ことばの力」を高め、言葉の働きや意味に着目しながら自力で読む力を育成するため、教材研究に努め、発問や学習形態を工夫するなど、日々の国語の学習を大切にしていきます。

3 算数科の結果から

- ・ 「図形」の領域の正答率は全校平均を上回り「データの活用」の領域では全国平均とほぼ同等でしたが、「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域では正答率が全国平均を下回っていました。
- ・ 正答率が 100% 出会った問題が 1 問（数と計算）あった上に、全国平均を 10 ポイント以上上回っている問題が 2 問ありました。その反面、10 ポイント以上下回っている問題が 2 問あり、各学年における学習内容をより着実に身に付けさせていく必要があると考えています。
- ・ 算数の授業では、「ただ公式に当てはめ、正しい答えが出せるだけでなく、なぜそうなるのか、どのように考えたのかを、他の児童に説明をしたり、順序良く書き表したりする力を伸ばせるように努めます。
- ・ 児童が「考えたい」と思える発問や問題提示の工夫、また考えを深める指導形態の工夫を更に充実させ、児童の主体的な学びに繋げていきます。
- ・ 基礎的な学習内容が定着するようにするため、習熟の在り方や家庭学習の仕方をさらに工夫していきます。

4 質問紙調査（生活習慣や学習環境、家庭学習）から

- ・ 「国語の授業の内容がよく分かる」「算数の授業の内容がよく分かる」と回答した児童が約 7 割を占めており、多くの児童が授業内容を理解しながら学習に取り組んでいることがうかがえます。一方で、授業内容の理解に難しさを感じている児童も見られることから、一人ひとりの学びを大切に、より分かりやすい授業づくりや教材研究の充実に努めてまいります。
- ・ 「国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う」と回答した児童が 9 割にのびりました。このことから、多くの児童が学習内容と将来の生活や社会とのつながりを実感しながら学んでいることが分かります。今後も、子どもたちが学ぶ意義や目的を理解しながら主体的に学習に取り組めるよう進めていきます。
- ・ 「昼休みや放課後に、本を読んだり借りたりするために学校図書館にどれくらい行きますか」という質問では、「週 4 回以上行く」「週 1～3 回程度行く」と回答した児童の割合が全国平均を大きく上回りました。また、「ほとんど行かない」と回答した児童の割合は全国平均を下回っています。読書活動は、語彙力や読解力を高めるだけでなく、豊かな感性や思考力を育むことにもつながります。今後も、児童が本に親しむ機会を大切にするとともに、学校図書館を活用した学習活動や読書活動の充実を進めていきます。「国語の勉強が好き。」「算数の勉強が好き。」と回答した児童が多く、どちらも全国平均を大きく上回る結果となりました。これからも、児童が学ぶ楽しさを味わえる授業づくりをしていきます。